

中野区基本構想の改定及び中野区基本計画の策定に係る検討状況について

区は現在、中野区基本構想審議会を設置し、基本構想に描くまちの姿の検討を進めているところである。また、新しい中野をつくる10か年計画(第3次)(以下「10か年計画」という。)の達成状況の確認など、新しい基本計画の策定に向けた検討を進めている。現在の検討状況について、次のとおり報告する。

1 中野区基本構想審議会における審議状況

これまで、全体会及び4つの部会で審議を重ねてきた。今後、10月の答申に向け審議のまとめを行う。

審議の概要は、別紙1のとおりである。

2 新しい中野をつくる10か年計画(第3次)の達成状況

10か年計画で示した「実現へのステップ(ステップ1・2)」の達成状況を、別紙2のとおり取りまとめた。この内容を踏まえて、新しい基本計画の策定に向けた検討を進めていく。

3 区民と職員のワークショップ(基本計画)の実施結果

無作為抽出した区民に案内を送付し、参加を希望した区民を対象として実施した。ワークショップはグループディスカッション形式で行い、各グループに職員が参加した。

実施結果の概要は、別紙3のとおりである。

4 今後のスケジュール(予定)

	基本構想	基本計画
令和元年10月	審議会答申	
令和2年1月	素案の策定	
3月	素案に関する意見交換会の実施	
4月	案の策定	素案の策定
5月	案に関するパブリック・コメント 手続の実施	素案に関する意見交換会の実施
6月	議案の提案	
8月		案の策定
9月		案に関するパブリック・コメント 手続の実施
10月		策定

中野区基本構想審議会における審議の概要

1 改定にあたって重視すべき視点

(1) 多様性の共存とゆるやかなつながり

- 中野区は、都市部においてもどこか下町的な気質があると言われ、サブカルチャーなど多様な文化を受け入れてきた土壌がある。区には、多様な国籍や文化、価値観を持つ人々が暮らしている。こうしたあらゆる個性を受け入れる寛容さを、地域風土として生かすべきである。
- 人間関係の希薄化が進み、地域コミュニティの姿にも変化が求められている。これまでの地域社会を支えてきた地域団体の強固なつながりとともに、ライフスタイルや関心、意欲に応じて、誰もが気軽に地域で関わりを持てるまちを形成することで、「ゆるやかなつながり」による新たな地域コミュニティが構築されると考える。

(2) 新しい物語のはじまりと再出発のまち

- 中野区は、20歳代の転入者が特に多く、中野に一度住んだことがあるという人は各地に多く存在している。自治体間競争が激しさを増す中で、このように次々と新しい人が流入してくることを、強みの一つと捉え、いわば「人生の新しい物語がはじまる」ことを、まちの活気の源として生かすべきである。
- 結婚や子どもの誕生、社会・経済活動の開始、人生100年時代における第2・第3の生きがい形成、人生の再出発など、様々な「人生のはじまりと再出発」をまち全体で応援することで、新しい価値や活力が常に生まれ続け、地域社会、地域経済の持続的な発展が実現できると考える。

(3) 未来を協創する垣根を越えた協働

- 社会課題が多様化・複雑化し、民間事業者によるソーシャルビジネスや公的サービス、NPOや地域活動団体等による市民活動がさらに活発化するとともに、ICTの急速な進歩による生活や就業形態の変化が著しい時代において、行政が担うべき役割を見極めていく必要がある。また、厳しさを増すことが予想される少子高齢化の影響や区財政の状況を鑑みると、より一層、地域の持つ可能性を引き出していくべきである。
- 将来にわたって、持続可能なまちであり続けるために、行政も含めた様々な主体が垣根を越えて価値観を共有し、課題解決に向けて協力して取り組んでいく「協働」と、それにより共に新しいものを創り出していく「協創」を推進することで、地域力を高めることができると考える。

2 改定にあたって盛り込むべきと考える事項

(1) 自治・共生・活力

- 多様な人々が、様々な形でつながる新たな地域コミュニティを構築していくためには、都会ならではの居心地の良い距離感を保ちつつ、ライフスタイルや関心に応じて、誰もが気軽に、遊び心をもって、地域で関わりを持てるような「ゆるやかなつながり」の中で生まれる、まちの魅力や活力を実感できる「なかの暮らし」を形成していくことが求められている。
- ゆるやかなつながりを築き、維持していくためにも、地域とつながりが薄い区民を惹きつけるような地域活動や、文化・芸術活動、区内経済活動などの多彩な活動が広がり、それらに参画するためのきっかけや情報にアクセスしやすい環境を整えていく必要がある。

(2) 子育て・教育

- 超高齢社会が進行する中で、将来にわたってまちの活気を維持していくためにも、「未来の中野を担う宝」である子どもを、中野のまちで育てていくことが求められている。
- 区の様々な活動団体、学校、関係機関等が協働することで、地域の力をさらに密なものにするとともに、子どもが地域との交流や豊かな心を育む教育を充実することにより、まち全体で子どもの成長を支え、子どもたちが自己肯定感を高め、これからの社会の中で「よりよく生きる力」を身につけることで、成長していける環境を整えていく必要がある。

(3) 健康・医療・福祉

- 絶えず変化する社会環境の中で、持続的にまちの活力を生み出していくためには、区民一人ひとりの個性が尊重され、それぞれに違いがあることを「当たり前」のこととして受け入れ合うことが大切であり、誰もが生涯を通じて自分らしく生きられる地域社会の形成を進めていくことが求められる。
- 支え・支えられる地域社会、各関係機関のネットワーク、高齢者や障害者の社会参画、新技術の活用による円滑なコミュニケーション、区民の快適で健康的な生活を支えるまちづくりなど、新たな社会環境の形成に向けて多面的に取り組んでいくべきである。

(4) 都市・防災・環境

- 子どもから高齢者まで、日常時も非常時も、安全に安心して暮らせる、住み続けたくなるような、持続可能なまちづくりが求められている。
- 中野駅周辺や西武新宿線沿線をはじめとしたまちづくりを進め、新たなまちの基盤が創出・再生されていく中で、区民を中心とした多様な主体が協働しながら、中野区ならではの魅力が最大限に発揮された、人々の活気とにぎわいがあふれる暮らし場所、集う場所、働く場所としてのまちを形成していく必要がある。

(参考)

新しい基本構想を考える職員プロジェクトチームの提案の概要

中野区基本構想審議会に資料として提出した「新しい基本構想を考える職員プロジェクトチーム」の提案の概要は以下のとおりである。

チーム	提案の概要（10年後のまちの姿）
自治・共生・活力	<p>○ゆるやかなつながりで「なかの暮らし」を実感できるまち ～ひとり暮らしも二人暮らしもそれ以上暮らしも～</p> <ul style="list-style-type: none">・生活の中に溶け込んだ「地域の拠点」において、多世代にわたる「ゆるやかなつながり」が生まれている。・さまざまな分野の「インフルエンサー」を経由し、各地域内において「ゆるやかなつながり」が生まれている。
子育て・教育	<p>○子どもたちが互いの個性を理解し、力を発揮できるまち</p> <ul style="list-style-type: none">・全ての子どもたちが、新しい時代を生き抜くために必要な力を確実に習得している。・子どもたちは、互いの個性を理解し、相手を尊重することができるのと同時に、自分のことも大切にすることができている。・子どもたちはそれぞれが得意とすることや好きなことに関する能力を高め、その力を発揮することができている。 <p>○保護者が楽しく育児できるまち</p> <ul style="list-style-type: none">・区内で子育てをする保護者は、それぞれが望ましいと考える環境の中で子育てを行っている。・保護者が持つ子育てにおける戸惑いや不安感が、保護者同士や地域との交流により解消されている。 <p>○地域全体で子どもの成長を支えるまち</p> <ul style="list-style-type: none">・地域の子育て団体が連携、情報共有し、子育て世帯がすぐに地域の子育て支援団体の情報を入手できる環境が整っている。・高齢者や企業（店舗）、町会・自治会等地域全体で子どもの成長を見守るまちとなっている。 <p>○新しい時代に対応した教育環境の整っているまち</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもたちは、情報化のより一層の進展に対応し、主体的に情報を選択し、活用し、発信するとともに、人間関係や直接体験を充実させ、豊かな人間性や社会性を育てている。・十分な支援により教員が授業に専念し、子どもたち一人ひとりと向き合った質の高い指導がなされている。

<p>健康・医療・福祉</p>	<p>○誰もが健康にいきいきと暮らせるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと個性に合わせ、日常的に運動・スポーツを通じたコミュニティづくりが活性化するとともに、区民の生きがいや居場所が生まれている。 ・より多くの人々が地域での活動に参加し、お互いに理解し、支え合うことで、孤独感や将来への不安が解消され、都市の機能的な住みやすさだけでなく、心理的にも住みやすいまちになっている。 ・自らが望む場所において必要な医療・介護サービスを受けることができ、「住んでよかったまち」となっている。
<p>都市・防災・環境</p>	<p>○公共空間における人々のつながりが、より安全で豊かな生活につながるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな時でも利用しやすく、環境に配慮された公共空間が創出されているまち ・区内各地域の拠点となる公共空間で充実した住民活動が営まれているまち

「新しい中野をつくる10か年計画（第3次）」における
「実現へのステップ」の達成状況（ステップ1・2）

1 実現へのステップの達成状況

(1) 各戦略における実現へのステップの達成状況

		項目の数（個）				
項目		◎	▲	△	×	合計
ステップ1	戦略Ⅰ まち活性化戦略	44	2	3	0	49
	戦略Ⅱ 安全・居住都市戦略	45	3	1	0	49
	戦略Ⅲ 環境共生都市戦略	21	3	1	0	25
	戦略Ⅳ 生きる力・担う力育成戦略	43	0	0	0	43
	戦略Ⅴ 地域見守り・支えあい戦略	28	1	0	0	29
	戦略Ⅵ スポーツ・健康都市戦略	50	2	1	0	53
	戦略Ⅶ 区民サービス基盤強化戦略	20	1	0	0	21
	戦略Ⅷ 持続可能な行政運営戦略	30	3	0	0	33
小計		281	15	6	0	302
ステップ2	戦略Ⅰ まち活性化戦略	18	5	4	1	28
	戦略Ⅱ 安全・居住都市戦略	16	2	2	0	20
	戦略Ⅲ 環境共生都市戦略	4	1	0	0	5
	戦略Ⅳ 生きる力・担う力育成戦略	19	0	1	0	20
	戦略Ⅴ 地域見守り・支えあい戦略	15	1	0	0	16
	戦略Ⅵ スポーツ・健康都市戦略	21	2	1	0	24
	戦略Ⅶ 区民サービス基盤強化戦略	10	2	0	0	12
	戦略Ⅷ 持続可能な行政運営戦略	7	5	0	0	12
小計		110	18	8	1	137
合計		391	33	14	1	439

(凡例) ◎実施・着手 ▲変更 △未着手 ×中止

(2) 変更等の理由

① 戦略Ⅰ まち活性化戦略

「中野駅新北口駅前広場整備」、「中野駅西口広場完成」、「東中野駅東口まちづくり計画の策定」、「東中野駅東口まちづくり整備計画の策定」、「哲学堂公園・学習展示施設整備」、「みずのとう公園の再整備」、「Wi-Fi、デジタルサイネージ等情報基盤の拡充」にスケジュール等の変更が生じている。

また、「囲町地区市街地再開発事業実施」、「新たなエリアマネジメント組織の構築」、「エリアマネジメント組織による事業展開」、「中野坂上駅周辺まちづくりの検討」、「観光ボランティア制度創設」、「観光ボランティア人材育成・運用」、「新たな立地

事業者のサービスや商品の体験と、商店街の催しなどを連動させた相乗効果による「活性化」について、関係機関との協議や方向性の見直し・再検討に時間を要している等の理由から未着手となっている。

なお、グローバル都市戦略の推進の考え方を見直し、シティプロモーションを推進していくことから、ステップ2で予定していた「外国人居住者の医療、教育、日常生活等のサポート体制の構築」については中止し、「戦略Ⅷ 持続可能な行財政運営戦略」の「外国人の生活情報、手続案内等の提供手段の多様化、多言語化の推進及びサポート体制の構築」の中で実施していく。

② 戦略Ⅱ 安全・居住都市戦略

「その他の木密地域の防災まちづくりの検討・推進（野方、上高田、本町他）」、「（仮称）上高田五丁目公園の計画・設計・整備」、「中歩2号線（中野駅西側南北通路）の整備」、「補助223号線（中野駅新北口駅前広場）の整備」にスケジュール等の変更が生じている。

また、「住宅相談アドバイザー等の人材養成制度の発足及び人材活用」、「景観行政団体への移行」、「補助第221号線（中野四丁目線路側）の整備着手」について、関係機関との協議や検討に時間を要していることから未着手となっている。

③ 戦略Ⅲ 環境共生都市戦略

「家庭ごみの費用負担に向けた取組の推進」について、23区が一斉かつ一体的に行う必要があることから家庭ごみの費用負担の導入にはいたっていない。また、「なかのエコポイントシステムの利便性向上」について、制度の見直しをした。なお、「HEMS等の導入促進に向けたなかのエコポイントの活用」については、検討に時間を要していることから未着手となっている。

④ 戦略Ⅳ 生きる力・担う力育成戦略

「保育所における休日保育事業の拡充」について、認可保育所において実施に向けての事業体制が整わなかったため未着手となっている。

⑤ 戦略Ⅴ 地域見守り・支えあい戦略

「昭和区民活動センター建替整備」及び「障害者の地域生活支援拠点の整備」にスケジュールの変更が生じている。

⑥ 戦略Ⅵ スポーツ・健康都市戦略

「区有地等を活用し、重度障害者グループホーム・短期入所誘導整備」にスケジュールの変更が生じている。また、「民間スポーツクラブとの連携の仕組みの検討」及び「民間スポーツクラブと連携した指導者派遣の実施」について、地域スポーツクラブ主催による指導者養成講座の実施に伴う人材バンクにより指導者派遣の仕組みを構築したため、必要性を再検討することから未着手となっている。

⑦ 戦略Ⅶ 区民サービス基盤強化戦略

「アウトリーチ型サービス等を可能とする安全性の高いシステム基盤の検討・構築」及び「総合窓口システム構築」にスケジュールの変更が生じている。

⑧ 戦略Ⅷ 持続可能な行政運営戦略

「(仮称) オンライン情報公開閲覧室の構築」、「マイナポータル等を活用した情報発信運用開始・情報発信内容の拡充」、「新区役所整備基本計画の策定、基本設計、実施設計・整備工事」にスケジュールの変更が生じている。

区民と職員のワークショップ（基本計画）の実施結果の概要

1 開催日および参加者

第1回 令和元年9月1日（日） 参加者 区民31名 職員14名
 第2回 令和元年9月7日（土） 参加者 区民32名 職員11名

2 会場

中野区産業振興センター

3 主な意見

ワークショップの各テーマは、対象者に対して行った事前アンケートで、関心の高かった事項を参考に設定した。テーマごとに「自助・共助」や「公助（行政）に期待すること」をグループでディスカッションした。主な意見は、以下のとおりである。

テーマ	主な意見（大切にしたいこと）
安心して産み育てられるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや子育て家庭とのあいさつや知り合うきっかけづくり ・保育施設の増加、待機児童の解消、一時預かりの充実 ・公園や児童館など、親子が集まれる場や子どもの遊び場の充実 ・受け取りやすく分かりやすい子育てに関する情報発信の充実 ・子どもの安全・安心のための道路の整備などの推進
これからの地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ別や世代別など、参加しやすいイベントの実施やきっかけづくりによるコミュニティの強化 ・困ったときに支え合える関係性の構築 ・特技や興味を生かして、無理せず続けられる地域活動の充実 ・行政によるコーディネートなどの充実
健康に暮らし続けられるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣や食事、生活習慣の改善への意識づくり ・運動や社会参加、つながりを生み出す場の充実 ・健康に関する魅力的なイベントの充実 ・健康診断や健康づくりに関する啓発の充実 ・行政による健康に関する情報発信などの充実
災害に強いまち	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からの近隣住民とのつながりの深化 ・防災訓練の充実 ・情報収集や防災グッズの備蓄などの備えの充実 ・道路の整備や空き家対策の推進 ・災害発生時を想定した情報発信体制の構築